

# 議 事 録

日 時	令和7年10月21日(火) 14:00～15:40	場 所	福島市役所 複合棟312会議室
会議等名	第2回 福島市5歳児健康診査導入のための検討委員会		
議 題	福島市で5歳児健診を開始するための、具体的な内容を検討し課題の共有を図る。		
出 席 者	名簿の通り		
主な内容	<p>次第に沿って説明・報告、協議を進めた。</p> <p>【委員長挨拶】</p> <p>前回の検討委員会で、発達に関する情報の共有方法について課題があることが明らかになった。健診結果を教育機関側でどのように活用するかも議題に上がった。今回の検討委員会でより具体的に健診の内容を決めていきたい。</p> <p>【説明】</p> <p>(1)5 歳児健診に関するこども家庭庁主催研修報告</p> <p>関係機関のフォローアップ体制の在り方について共有。他自治体でも母子保健と幼稚園・保育、教育との連携不足が課題であると報告をし、福島市では同様の課題があるのではと意見があった。</p> <p>(2)福島市でおこなう5歳児健診(案)</p> <p>問診票と二次問診の案について、多くの質問・意見があった。発達状況確認のために必要な項目に関して、今後医師及び心理職と検討する。従事者に向けた研修の開催をしてほしいとの意見があった。</p> <p>(3)関係機関より検討事項の共有</p> <p>所属での様子、5 歳児健診、早期教育相談、就学時健診、教育支援委員会がつながることで、切れ目ない支援ができると、共通の認識があった。</p> <p>【協議】</p> <p>(1)事前アンケート結果について</p> <p>心理士の配置、周知先、相談先一覧作成に対して、賛同していただいた。</p> <p>【意見交換】</p> <p>支援者と保護者が、児の発達について共通の認識を持つことが大切。必要な資源を提供するために、関係する機関が適時連携していることが重要であると再確認した。保育園・幼稚園、健診から教育部門へつなぐためのツールを作成する必要があると意見があった。</p> <p>【今後について】</p> <p>5 歳児健診の具体的な内容(問診票、二次問診、情報共有方法等)は検討委員会で出た意見をふまえ、実施の方向性を固めていく。</p>		

## 第2回 5歳児健康診査導入のための検討委員会 発言録

日時:令和7年10月21日(火)14時00分~15時30分

場所:福島市役所 複合棟 312 会議室

○:委員意見・質問 ●:事務局の説明 ※いずれも要約

### 【説明(1) 5歳児健診に関することも家庭庁主催研修報告】

○健診事後のフォローアップ体制の整備がポイントだと感じた。教育機関との連携が課題と考える。

○教育部門との連携の課題について他の自治体から具体的な報告はあるか。

●A市より教育部門との連携の課題について、ツールがないこと、個人の情報をどの程度まで伝えていいのか不明であること、教育機関と連携の方法について話し合う場を設けられていないことが課題と聞いている。

### 【説明(2) 福島市でおこなう5歳児健診(案)】

○問診票について、感覚、共感性、多動、不注意をみられるものがあるといいのではないかと。感覚の敏感さや鈍感さを問うような、例えば「ざわざわしているところが嫌いか」などの質問を加えるなど、学校生活の中で困難となる児がいるということを念頭においた質問を入れるのはどうか。

●問診票の中に、こだわり行動や不定愁訴を確認するような項目は入れ込んでいるが、感覚の過敏さを直接問うような質問は入れていなかったため、今後相談させていただきたい。

○二次問診で数の概念(多い少ない)について聞く項目を入れてもいいのではないかと。また、二次問診ではより詳しい内容を確認できるといいのではないかと。

●検討する。

○問診票を保護者が記入するにはかなり難しい内容である。毎日児を見ている保育士や児童発達支援センター職員から事前情報を共有できるといいと思うが、負担を考えるとどうなのか。

●正確な情報をどのように把握するかは課題である。自治体によっては保育士と一緒に問診項目を確認するところもあるが、当市は該当人数が多いこともあるため検討が必要である。保護者から、園の先生に普段の様子を聞き、心配なことはないかを問う問診項目を設けている。

○ガイドラインには親の睡眠などの健康に関する項目もある。保健分野ではなかなか関われない世代であるため、親の健康について把握できる項目があるといいのでは。

●保護者の体調についての項目は、今後検討したい。

○4歳前後に急に発達する子もいるため、対象者は5歳過ぎてからの方がいいのではないかと。

●誕生月に5歳になる子を対象にする予定。

○今までの健診とは診察内容が異なるため、医師の研修は必要。二次問診で確認できたことは、医師の診察で再度確認する必要はないと思う。

●研修に関しては開催する予定。二次問診詳細については検討が必要。

### 【意見交換】

○健診について、「引がかかる」というイメージを持つ方も少なくないと感じるため、発達を支援していくときにその子なりの発達の道筋があることを伝えられるような雰囲気が進められるといい。

○各機関の連携が難しい。やりながら少しずつ変えていくしかないと感じる。

○5歳児健診を通して、保護者支援(保護者自身の健康などへの支援)の充実も必要である。

○健診が開始したら保護者への健診の案内を行い、健診の結果をもとに、一人ひとりに応じた健やかな学びと成長をみんなで見守りたい。

○他機関が繋がる機会であるため、相談先が増える、気に掛ける方が増えることで、安心した子育て環境ができるといい。

○今の所属で児がのびのびと生活でき、学校生活でも継続できることが目標。

○療育が必要な児の相談窓口の充実が必要と感じた。

●完璧に実施することは不可能である。健診開始後も、都度課題を見つけてブラッシュアップしていきたい。